

春生軒口傳書

左

和装本

ケ 5

41

94





春生軒口傳祕書目錄上

第一 午細之内傳三品之大支 并 根策

第二 一 曹中之經之支

第三 一 鞞木道之傳

第四 一 四節之鞞之支

第五 一 居木之支

第六 一 鐙中之矩之傳

第七 一 五六之傳

第八 一 塩字之傳

第九 一 午細之傳法

第十 一 鞞之傳

第十七 一駒亭棹之文

第十八 一十繩之文

第十九 一鎌差繩之文

第二十 一殿杖之文

第二十一 一馬尺之傳

第二十二 一櫻狩之傳

第二十三 一輪乘之傳

第二十四 一俾呂之傳

第二十五 一溜息之傳

第二十六 一向爪之溜息之傳

第二十七 一回追爪之文

第二十八 一腰午細之傳

第二十九 一回法之傳

第三十 一人一法之傳

第三十一 一常術之傳

第三十二 一馬川入之傳

第三十三 一馬屋之傳

第三十四 一馬場始筑之文

第三十五 一本式馬場殿之文

第三十六 一土居之文

第三十七 一捨場築様之文

第三十八 一馬場之法

第三十三 一 豎沙之文

第三十四 一 箱馬場之文

第三十五 一 馬氣懸之文

第三十六 一 陰馬陽馬之文 并 五性十毛

第三十七 一 二七之傳

第三十八 一 當流已毛之傳

第三十九 一 駟四調老馬之傳

第四十 一 小荷駟雖繩 并 鈴什兒傳

第四十一 一 馬割耳傳

第四十二 一 馬足踏付之矩之傳

第四十三 一 馬場之亭立兒文

第四十四 一 馬歲貝核

第四十五 一 白日之口傳

第四十六 一 頰目之口傳

第四十七 一 白日之傷懸口傳

第四十八 一 黑目之白口傳

第四十九 一 目之口傳

第五十 一 二季之療治口傳

第五十一 一 馬科之傳

第五十二 一 物毛之燒傳

第五十三 一 蹄頭蹄內之針之傳

第五十四 一 馬川出不時之法

弟五 鏡相様四品之法

弟五 佛家工馬ヲ引法

弟五 馬ヲ始テ厩工引入ル法

春生軒口傳秘書

弟一 品

一 午細之内傳三品大支

上口乳ノ通りニテ午細ヲ納ルヲ上口ト云ハ蓋コブシヲ伏セテ取時
ハ上口ノ上ニ當ルニゴブシヲ立テ取時ハ上口ノ下ニ當ルニロクニ取
時ハ中ニ當ルニ

弟二 品

中ノ口帯ノ通りニテ午細ヲ納ルヲ中ノ口ト云ハ蓋コブシヲ伏テ取時
ハ中ノ口ノ上ニ當ルニロクニ取レハ中ノ口ノ中ニアタルニ立テ取レハ中ノ
口ノ下ニ當ルニ

弟三 品

下口鞍カサノ通りニ午細納ル下口ト云ハ蓋コブシヲ伏テ取時ハ
下口ノ上ニ鎌アタルロクニ取レハ下口ノ中ニ當ルニ立テ取レハ下口ノ

下ニ當ル右と中下ノ口ニ三ツ在乗分アウテ是ヲ九品ノ口ト云
附一
竹之根策之支

是ハ本ヨリカテ三十三節ノ已長計ニ切テノ脇ニ竹ノ本ヲ當テ
タテ高指ニララベ右ノチヲサシ出ニ長高指ノキヨヨリ一束ニ
取テ又又末ヲ左ノ三之指ヲアテ、切ルテ是ハ我身躰ヲ
策ニ移シテ氏神ニ我姓名ノ神ヲ祭敬スル所以也。

第二
書中之矩之支

ハニノ渡リノ馬地性成カ故ニ四寸ノ矩ヲ用ニ四寸トハニノ渡リ
等ニ是本躰ノ矩成カ故ニ大馬小馬瘦馬肥馬凡ニ古ノ書相
應スルニ當世三寸ニ五寸ニ杯云ハ至理ヲ知サルカ故ニ

第三
鞍本道之傳之支

凡鞍ハ五ノ矩ヲ以本トスルニ一六中之矩中ノ矩トハ寸許
板ニモリ付テ蓋ニ其板ノ中ニ木ヲ立テ鞍ノタケヲ定メテ
定ル矩ハ三ハ挾矩其矩ハ前ノ鞍凡ノ間後ノ鞍凡ノ間ノ矩
ノ支ニ三ハ居木ニノ間ノ矩其矩ハ居木ヲ鞍ニ切合スルニ其矩
ヲ本トスル外ニ二ノ矩ハ秘支タリニ二ノ矩ヲ以大馬小馬大人小
人ヨリ乗セ皆ニラカレ、矩ニ其傳ニ云上矩上ノ矩トハ凡人ハ
五行全備リ小天地成故曰ヲ以本トス故ニ十月胎内ニ三モ
リ曰ヲツカサトル日數十故ニ尺ノ矩ヲ用ニ是ハ人ノ本躰ノ
矩ニ其アテ処前輪ヨリ後輪ノ間ニ合如クニウツ矩ナリ

下ノ矩ハ馬ノ本幹ノ矩ヲ打交ニ其傳ニ馬ハ地性也數四
故三前凡ト後凡ノ間四寸ニ打交、馬ノ本性ノ矩成故大馬
ニ毛小馬ニ毛瘦タリニ毛肥タリニ毛能皆ニ置合者ハ天地本幹
ノ寸法ニ叶カ故ニ日域ニ於テ外ニ鞍ノ寸法十二蓋上ノ矩下ノ
矩ハ大概ハ廣秀道全入道ニ傳レト云凡ニ三ノ矩ノ奧杖ハ
衆人ノ村ニ殘ニ也 大坪道全ハ廣秀ノ指圖ノ鞍布ニ故ニ道全替
各直弟ト云ニ是元祖大坪廣秀ノ指圖
指南故ニ直弟ト云ニ

四節之鞍之支

前鞍ハ前輪之切付 カ羊通りノ中ニ左右前輪後
輪ノ間四寸ノ道中之通りナリ
中文鞍ハ後輪ノ内凡ノ先ノ 後ノ輪ハ後ワノ切付
通ノ穴ナリ 中ノ鞍ヲ真

ノ鞍ト云前輪ヲ行ノ鞍後輪ヲ草ノ鞍ト云其草行
之文字ヲ馬書用ル支ハ物ニツニ取テ上中下ヲ分ル將ハ其草
行ト云ニ是ハ本文文字ノ抄法ニ用タル支又ハ
居不之支又

八條ニ袖木小笠原油木内藤ニ六圍木何レモイギノ支ハ
大坪ハ居木ト書但中古大和流ニ作ル伊木

鏡中之矩之傳

鏡中ノ矩リ以鏡ノ寸法ヲ定ム中ノ矩トハ四寸ノ矩ニ押取ノ
内ノキワヨリフニ込ノ中ノ矩ヲ渡シテ四寸ニ打交ナリ是又
馬地性ナレ故四寸ニ定ム人足方ニシテ地ノ形故ニ地ノ數人

馬ニ相應スルニ本体ノ矩ナル故大人小人大馬小馬ヒニヨリ相應
スナリ鑿ハ大形能ハ小形ハ足りクタヒレテ惡シ五六ヨキナリ寒
氣ノ時足ヒト遠ク乗時輕キハ足ツカレズ

五六之傳

神道流柴崎方ニテハ本鑿ニ五六三十貫目ノ重リヲ楨夫
ニテ板セヌヲ用ル故五六ト云ノ説ニ大坪枝流上田吉之丞重
秀カ方ニテハ本鑿ハ元小兒ノ用ニ制衣作ス故幅五寸ニ長六
寸ニ是兒ノ足ニ合様ニ寸量ヲ定メル故号ケテ五六ト云ナリ
兩説何所異説ニ大坪本流ニハ本鑿タリト云氏金ヲ以知
ニ筋ヲナク金ハ五分ニシテ木ハ六分ニ是以ナリ故ニ五六ト云金
ハ少ク木ハ多ク故本鑿ニ銅四分ニ金一分ヲ加テ四分ト云ニ相同シ

塩午之考

海ノ在ル鞍ノ塩午ト書海ナキ鞍ノハ四方午ト書唐鞍ハ
ト書也

午細之傳

法或ハ春ハ木綿夏ハ晒秋ハ布冬ハ絹軍午細ノ古法ハ晒
布ヲ用^{布モサラシ布}ニ細ナルヨシ^{地色}白淺^黄赤キ段タラスシ^{筋ハ好吹茅何程}
一丈二尺水付寸七寸ニ縹目五寸左右同寸常ニ用午細^{天ニ水付}
^{卷目左右}

合三尺一寸
五分也

漢ノ武帝知徳山ノ狩ノ時弓杖ノ尺ニ定テテ夫ヨリ七尺五寸

ノ法ヲ用是ニ水付ヲ入テ一丈トスル也

鞆之傳

軍ニ細布ヲ赤染テ用テ足ヲ鞆モカキノ類ヲ軍中ニテ切
レテ結次或血杯付テモ目ニカニラ不見クニクナキ寸法馬言
ルニシ布ヲ廣ケ馬ノ背ニ當テ取テカテ上ニ廻シ鞆ノ上ニテ取テカテ前
ニ掛テ結此積リニテ尺ヲ定ムニ馬ニヨリテ尺カワル
常ニ用ルハトテ金緒繩ヲ平クアヒテ組テカヨリ小二筋ニスル也
寸馬ヨリ或七尺五寸トテ金ヨリ組テカハ迄
四尺九寸

助之棹之文

是ハ公方ヨリ神馬鞍上ノ時ハ公方ヨリ位階ノ上成ニハ
方ノ棹ヲ用位階下ケレハ州ヲ用ユ一合ニハ尺ノ一ノ寸ニテ

小繩之文

常ニ釣ノ付タル繩ハ法或ノ時正月
用之始ノ時用之

鎌差繩之文

戦場ニテハ白差繩ト云白ツカ浅黄ハニル老人幼少ノ人ハ過色
ヲ用ル也過色ハ紅
ナリ其内紫モヨキハ忌御所方用也何モ唐
糸ニテ打テ先ニサハ無キハ常ニ用ル者浅黄ハニテ浅黄ト白
トノ打マセナリ

威杖之傳

上ヨリ三ツメノ節ヨリ下ヲ割リ其ワリタル竹ヲ一本ツ紙ニ
テ卷ニ細ニ割又為ニ

馬尺之傳

凡四尺ヲ臺トス四尺ハ地ノ數ニ馬ハ地性ナレ故其數ノ用工
故四尺ヨリ上ヲ寸或ニ寸或三寸之馬ト云四尺四寸ノ時ハ音重
ナル故四尺四寸ト書テ寸ノ字ヲキト讀メ寸ハキト訓ル也
ハ寸ハ氣ハ氣ハハホル心ハ四寸ヨリ五寸六寸七寸八寸九寸五尺ヲ
時ハ余ルト唱ル是ハ人ノ長九五尺ト云故畜ノ長ヲ人ナラフル
支ヲソレリニテ余ルト唱五尺一寸ノ時余九寸ニ寸三寸四寸
五尺五寸ノ時余九寸ト唱ル是ヨリ上ハ寸ト唱メ漢ニ五尺以下
ヲ助ト云六尺以上ヲ馬ト云七尺以上ヲ驃ト云八尺以上ヲ竟ト称
スル也

櫻狩之傳

或説ニ櫻馬ト
書異説有之

櫻狩古ノ今ノ京ニシテ出来ル午細ノ今ノ京ハ平安城ヲ云ニ
時ノ帝志加ノ花園ノ桑良ノ八重櫻支野ノ一ノ花御覽
アリ多思召セ花ノ盛知サレ故ニ廐牧令ニ仰リ下シテ花ノ
盛ヲ見テツイルキトノ仰有時其時ノ衆人腰ニ花籠ヲ付
鞍ニ矢立ヲ付テ馬ヲ乗出スニ其間遠路ナル故遠道ノ衆ヲ
ウ知ラサレハ衆獲ルニ故其傳ヲ得テ馬ニ乗テ其櫻ノ名
処ニ乘付馬止リ櫻狩取テ札ヲ付花籠ニ入花ノニホササレ前
ニ乗アシ奏向ス又ニ是ヨリテ遠ク乗ルヲ櫻狩ノ午絶
ト馬ルノ後成郷文ウクニ又ヤ見支野ノ一ノ櫻狩

花ノ千々几春ノアケホノト讀シモ馬トヨリ花ノ盛ニ其枝ヲ
午折レハ雪ノ如クカリナシ女サカリヲ奏向シタラシハ行幸
成ハシ只時供奉シテ女花ヲ又ト云心ノウタ之亦櫻鷹ト書
ハ古宮ト知ラサル人ノ押テ其理ヲ作ルモノ之彼異説ニ云櫻
ノ以鷹故郷カハル女向教千里然モ鷹勞レスシテ古郷カハル
是序破急ニテ棄ラハ息切ルナリ千里ニ至ルヘト云心ニテ櫻
鷹ト云ハリ然モ櫻狩ハ故宮ニアツテ其名モノコレリ将又春
ノ狩ニ馬ヲ以櫻ヲ狩ルルニ櫻ト文字ヲタメテ故宮ニテハ櫻
ノ比鷹故郷カハルト云鷹鷹ハ二月十日アリ花ハ三月ニ英ニ
幽時節相應セズ業平朝臣之哥ニテ春ハ冬ニ名ヲ見捨
テ行カリハ花ナキ里ニスモカナラエルカリ讀ル哥ハハニ時節
ノ不相應ナル事ヲ知ベシハ是モ對ニテ其意ハ在ル也

輪ノ乘之傳之文

輪ニテ馬ハ順フモノナリ漢ニ旋曲ト云施者四之輪ル形曲ハ折
之斯ルノ馬ハ太陽ナルカ故陰ノ輪ニテ是ヲ包ム能マカウ
又馬ハ地ノ地ハ方ニテ人ハ天ノ天ノ四ノ天ノ氣ノ以地ノ馬ノ包台正
シ一四ト云 ① 四ハ方ヲ以テトカ成ヲ知ル方ナキ時ハ何トシ
テ四ヲ知ラシマ四ナリシテ方ナシ馬在テ棄リ在人在テ棄
道在是ヲ以テ一四ト云又三角トハ曲ノ又ハ折丁ノ馬ハ南方
火也也醫云火躰赤色南三角ト云故折ル時ハ馬ノ頭

聖力午曲ル女処ヲシレバ三角之鱗ト成ル三角ナレハ馬ノ
本性火性ニヤタ九故馬ノ本性ニ云々カ速ニ馬順ナレ故三四
三角ノ傳授トスル也

悍^{カニ}呂之傳

八条ニテハ所ニ作ル小笠原ニテハ同ニ作ル内藤ニテハ漢ニ作ル
大塚ニテハ悍ニ作ル八条所ニ作ル下九馬ハ南方ノ火畜ニシテ
西下ノ石火ニ生スル故ニ膽ナシ然ルニ所ト作ル多不審小笠原
同ニ作ル多何ノ体ヲ以同ト云花同ノ字通ニ難ニ内藤ニ漢ト作
ル是ハ文選東京之賦ニ天馬羊漢タリト見ハタリ花漢ヲトシ
ル故カ羊漢ト云字ヲタメハイサメリイサムト能通ス漢
ヲ一字ニテハイサメリト通ニ難ニ當流ノ悍ハ勇悍ト文字ヲ
通ス一字悍ト出シテイサムト能通ス故ニ悍ニ作ル傳ニ云悍

ハ元氣情心ノ余カ指テ云 悍者高
瞬ナリ

溜息之傳

櫻狩或遠道ヲ早乘スルニ用ニ平馬ノ息ハ人ノ息五息ニ息
来ル之故ニ息長キ物ニ馬ハ一息ニ外エガリ引テ内ハ入ル息ナ
シ此故ニ早ナリ息ツル人ハ一息ノ内ニ内外ヘツクニ呂律之息是ナリツク
息ハ生ル息ニシテ是ヲ律ノ息トシ甲ノ音出ルナリ引息
ハ死ノ息是ヲ呂ノ息トシテ乙ノ音出入馬斤息ノ内ハ何
程乗テモ吉ツレカ諸息ニナルト馬ヲシズルニ傳ニ云我息一息

二馬ノ息合三四息ハ不苦六七息ハ切ルニ又日斤息トハ吸息
 之此息ノ内ハ息不切ノ斤息ヨリ諸息エカル時ハ必休ムシ
 諸息トハ呼吸同ク習ク息ヲ云馬ハ律之呼吸ト成ル故
 ステ畜類ハ物ヲ云フアタワス馬ヲ留テ息ヲ休ル傳ニ云上悍
 ノ馬ハ馬ノ息三息ニテ序ニ返スシ
考テ和シ
 是又傳也 序ハ地道ノ地道ヨリ乘ニ移
 スシ我息ノ積リニテ道ノ法リ
 返スニ遠路ハ此心ヲ以休メ休テ馳テ次第ニカサニジテ乘テ
 此傳ニテハ馬ノ劣ル古又ナシ

白凡之溜息之度

是ハ凡下ノ迴シ息ヲ吸ス凡天ヨリ又大輪ニシテ向凡向テ

テ乘也 或ハ一所ニ所末ハ三四
 所ニ休ムシ 委細圖説也



追凡ハスクニ留テ息ヲ吸ス亦輪ヲ乘テヨキニ是又圖ニ記也

二所 三所 四所

山坂溜息之度

是又九折ニ乘テ其角ニシテ息ヲ吸ス凡ノ圖ニ記



腰手細之傳 漢ニテハ帶馬ト云

當流ニ鞞固ニ用軍馬打物弓ノ爲ニ用午繩ヲ左右凡ニヨキ

加減ニ引ハリ曲リノ取髪ニカケル輪ナニ引ハリタル手錠ヲクリ
シメノ鑲ニ通シ輪ナニ取スグニ引ハリタル手錠ヲ下ヨリワナニ取り
テ内方ヨリ又ワナニ曲リノニカテ通シセシスル也左右同餘ル
曲リヲ洲濱形工通シ留テモ又唯置テモヨシ強キ鞅固ナトナリ
テ馬トシテノワザ自由ニ下リント思時ハ前ワノ曲リヲヌキテ
向ハ引ハルニ解ケテ自由ニ

亦一法之傳ニ云

右ノ如ク手錠ヲ取曲リヲ帶ニ下ヨリ引通シシメスグニ曲リヲ
トヨリ下ヲ掛ニ重ニ左右ノ取リ合アツリヲ腰ニ挟ミテモ又只
俟置テモ鞅ニシテ手錠強キニ下リントスル時ハ只腰ニ挟ミ
タルヲハツシスグニナルニ挟フガレ時ハ只下ルト自ト
手錠トクルナリ

又一法之鞅固

三尺手錠ヲ後口ノ帶ニニツニ折テ中ノツナヲ下ヨリ通シ
夫ニ両ハミヲ引通シ留テ其両ハミヲ前ノ取タキツケナレハ
小用処ノ空ヨリ引出シスグニ股ニ掛テ力草ノ下ヲ通シ右
キカヒカケケスグニ後ワノトニ堅ク引取り取違ヘテ居シキ
ニ敷又前ノ余リヲ狭ミテモ昔ニ是ハスグニ折ルレバ手錠自
トハツルニ鞅ノ下カリヲ取ラシ急ニ固ムルモ此傳

常術之傳

其上用中ノ卷 天ニ朝涼キ時ニ三ヶ度程可騎乘冬ニ寒
ノ中ハ暖成時昼ニ三ヶ度程可騎乘云々軍術ニテハ冬ノ日
中ニ用之中ヨリ々可騎乘之ヲ寒ニ夜中ニ時々可騎乘
之ヲ是寒ニ暑ニ馴スルノ術之術以心得可乘

馬川入之傳

是ハ武ノナラシメ川ニ馴サセシ為ニ六七ノ比暑ノ時今川
入ヲスルニアツリテ世同ニ療治ノ為スルト心得ルニ療治
ノ一ノ為ニスル時ハ皮毛ノ向ニ湿ヲ含シテ冬ノ氣ニ至リ必ナヒラ
ヲ煩ニ

厩之傳

九疋立ハ陽ノ厩ニ數ハ疋立ハ陰ノ厩ニ數馬立ノ數ニヨル
ニ天子之左右ノ馬寮者厩牧寮ハ陽ノ厩也 瓦宮固令大
舎人之厩ハ陰ノ厩也馬屋ノ口ハ南東ニ明ル定法也各接ハ
ハリ坪水流ニハ大樋ニシテ一面ニ流スニ一面ニ流ル故地中ニ湿ヲ
不令馬ナヒラヲ不煩也窓ハ疋苑ノ後ニ明ル是ハ高ク馬ノ頭
通ニ可明一窓ハ下之方ニ明ル是漢拂ト常ハ引戸ニシテ立テ
置人ノクダリテ其ハ明テ凡ヲ通ス窓ハ上窓ハ張窓ニモ下ハ板窓ニ
物ニテコヲ小向ニ明ルイヲ忌ムニ世實ノ方ハ猶以忌ム也

馬場始テ築ス

先南北ヲ吉トス東西ハ次之可トス南北ヲ吉トスルハ馬

ハ南方ニ位シテ朱雀星ヲ宮ル馬ノ火ノ火畜ニシテ火ノ日ニ
准ス周碑ニ曰ク火ノト註ス日南天ニ至テ八方ヲ照ス故馬
火性日ニ准ス南北ニ攝ニル也東西ハ次ニナスト日西天ニ不満ト云
古語ニ依テ南北ヨリハ次トスルモノ也

本式馬場殿之式

三百六十四間吉トス凡四町八反成ニ賴朝公武州府中ノ
馬場四町八反トス凡三百六十四間ト云々横幅十二間一年十
二月ヲ象ルニヤ但三月月之年ニ築ク時ハ十三間ニ築クト云
ル故寧ルモ在リ其外法式ナラヌ又馬場ハ豎陽ナレバ横陰ニ築
クニ是重半之數也或十五間ノ堅ナル時ハ陽數ニシテ半也其時ハ横
六間ニル是重數也

土居ハ今土手

土手ナリ高サ四尺ウ子リ二間敷二間是
重數ヲ用築クモノ是ハ馬
ノ地精ナルハ故ニ地ノ數ヲ築地ハ方ニシテ四ツノ數ヲ象ル故ニ四尺
之法ヲ定メテ築也

土手之上ニ木ヲ植ル也

櫻楓ヲ吉トス捨場ノ外ニ柳ヲ兩井ノ本ニ植ル也又捨
場ノ外ニ松ヲ植ル櫻楓ハ夏ハ茂リテ陰涼ク冬ハ葉落テ
日アタリテ暖也柳ハ水氣ヲ以水ニクヨリ在松ハ常盤之祝
縁也是法也

捨馬場ト云々

馬場ノ外ニ馬ヲ立ル処ヲ指テ云コノ小キ場ヲ取リ是ヲ
馬ヲ出スニ

馬場築様之古又

二筋ヲ以テ吉トス間數尺外法式エツクト云ハ氏一筋ハ略儀
之馬場ニ口ノ明様左右ノ角ヨリ四十間程此方ニテクハ中ノ
口ハ忍ビ口ニ道セバク是ヲアクベシ

堅沙之支

本式ノ馬場ニハ馬出ニ堅沙ヲ盛也左右ニツニタテ長ニトヲ
スホメ四角ニ盛ル上モ平ニナラス又沙土ニテタリテモ吉ナリ
土ヲセキノ如クニスルニ

箱馬場ハ内馬場之支

腰板ヲスグニ土ヲ用ルニ四尺ニ折箱馬場ハ略成故必ヨ
リテ岳在馬場之支弓場殿此二殿ハ本朝之學行取也夫倭
國ハ弓馬ノ國故弓馬ヲ以道トス是故弓馬ニツニ道ト云文
字ノ古来ヨリ用外ノ武術ハ只武藝ト号スルモノ之故ニ馬
場築法有當世其法式ヲ知人ナシ

馬場乗懸之支

古来ハ馬ノ勞ルトヲ嫌ヒ息ヲ扣ハ汗ヲ助ケタルトナリ當
世ハ馬ヲ乗勞ラカニ汗ヲ流ストヲ第一トス大汗ヲ発タレハ
心氣勞レテ骨肉瘦ウカル者之故ニ心氣勞スルトヨリテ世

上二病馬多ク由馬又多ク武要之兼法ヲ忘レ馬賣人ノ為
ス丁ヲ用ル故ニ兼カケタガヒノ出来スルコト

陰馬陽馬之古又

陽馬トハ青葦毛木栗毛雲雀毛火ヲ指テ陽トス第一
葦毛栗毛ヲ陽中ノ陽トス其故ニ昔方ニ先可用廉毛糟
毛土月毛河原毛金陰中之陰馬之凶方ニ用駁ハ何毛三テモ
本毛ニ屬ス栗毛駁ハ火性ト知シ白キ処ハ何レモ驪サニ屬
ス此栗毛ノ方重ク取テ本毛ニツケテ火性トス十毛比同
也也驪ハ陰中之陽ハ本毛三ハ水性ニ屬ス其目ニ似タル
也也以驪ト云

二毛之傳

漢驪ト云和ニ起ニ雲ト作ル又駁ト云説有駁シ二毛ト云
變ニツ毛成故ニ三毛ト呼ビマ傳ニ云駁ハ何モ本毛付クナリ
緞ハ葦毛駁ナレハ葦毛ノ性ニ准ス黒ノ駁ナレハ黒ノ性ニ屬
クニノ性コレナシ昔富士川合戦ノ時上総之从忠清ト云者ノ
武者大将ナリレカ其人駁ノ馬ニ乗ケルトソ富士川ノ水鳥
ノ音ニ驚キ平家ノ軍破レタル時忠清真真先ニ逃タルト
ソ其時ノ狂言ニ忠清ハ二毛ノ馬ニマ乗ツラニカケスニ
落ル上総シリカイケ様ニ讀レハ上総之助駁ノ馬ニ乗タル
トソ惣シテ二毛ノ馬ソ陣中ニ心變ハ右キ變ニマ義経之軍

哥ニハ敵ヨリモニモナル馬ノクルソヨレヨ人モ人馬ハ神ニサ、
ケコト讀タルウクハ思ヒ出レハ古キ交ト見ヘタリ敗シ
ニモト云フ不審昔時天照皇太神天ノ班駒ニ乘テ立神
ト因エテ争ソヒ給時召レテ速ニ因シ切取テ是軍ノ初
メノ日試ミテ、此古實シ大トス然ラハ敗ノ馬ニテハ有ヘカラ
ス源賴光之馬モ敗ノ馬有古又記録ニ見ヘタリ 中古ノ誤
テ敗テニモト云ニヤ驢ヲニモト云交驢ヲ和子不モト
訓スル鼠ハ北方ヲ司ル北ニクルト讀ク皆脊ノ背ハセナカト
ヨマセウレロト訓レテニクルト讀ク依之具足ノ後ニ持物
ニキヨウクル坪在其坪ノ下ニ少クヒ子リタル物在是ソ鼠ト
云鼠ハ北ヲ司ル北ハ後ノ舟トハ其後ソ敵ニ見スルソ以云也
故ニ驢ノ鼠モト訓スル故ニ又ニモト云ルニヤ驢 全日ニ准
スル故其心又不審ニ和字ニ起雲ト書テモ驢ノ字ノ心ヨリ出
ルニヤ雲ハ水之水之神ハ竜也水ハ北ヲ司ル管仲カ云ルニ竜ハ
水中ノ神ト記ス古語ニ竜吟スルハ起雲虎嘯ケハ生凡ト云
ハソ水气起テ雲トナル故ニ起雲ト書テ北方又ニクルニ讀マテ
起雲トカイテニモト交ニヤ予思ヒラク 此ニモ依テ古来ヨリ
和ニ忌相ソ業スルニ位牌作ノ馬ノ大凶馬トナク敗ハ用タル
右字更ニ驢ヲ用タル交又有之漢ニ忌相ノ馬ヲ業ワル
ニ的驢也是ソ大凶馬トス元享良馬集ニ云 答業テ市

ニ捨ル大凶馬トス般浩カ説ニ至之命ヲ絶大凶馬ト記
セリ故ニ和漢之相ニ依テニ毛ヲ論スルニ廣ニハ的野和ニ位
牌作ノ馬ナルニ位牌作トハ額ヨリ口ノ内迄白キ筋ノ通
リタル云々之漢ノ的野也其形位牌ニ似タルヲ以テ其名
トハ額ヨリ口迄白キ馬ハ敵ヨリ見レハ其頭ニツニ分レタル
形之戰場ニ趣ニ頭ニツニ分タルハ死相ハ是又凶相之故
忌之ニツニ躰分レタルニ毛ニ作ルニツノ毛ト書テ位牌
作的野ニ能通シテニ毛ノ馬ト云々之的白之野ハ額骨ト註
漢ヨリ渡リタル馬書ニ多ク出タリ

當流ニ忌毛之傳

凡馬ヲ相見スルニ三毛五鬣或毛卷又ハ人ノ性ニ依テ馬ノ性
シ合セ相對相生ノ選フ者也 三毛鬣トハ一而三筋氣骨之鬣タル
ニ云ホ云鬣太シテ頭ハ小ニツノ鬣ニ
腫少シテ蹄大成ニノ鬣ニ五鬣トハ大頭後耳ヤワラカナル耳ヲ云鬣ナリ
長頸不折テ鬣ノ上頭短ク下頭長ニ鬣ノ大略ホ字短ク腸ノ白ノ鬣ノ淺寛
海脚五ノ鬣ノ委ノハ善
御譜ニ見ヘタリ 緞ハ木性ノ人金性ノ馬ヲ忌金性ノ月毛
川原毛ニ金冠木ノ金未ウタル故ニ是ヲ忌又土性ノ馬是ヲ忌
木冠ニ在毛糟毛然レ凡馬ノ性ニ人ノ性勝故ニ半吉ニ其外
五性ナ毛都テ相生相對在詳ニ軍馬及相馬之書ニ出タリ就
中當流ニ忌毛之馬一ツ有其傳ニ云金性ノ人火性ノ馬ニ乘サ
ルモノノ金ハレツテ下ルツ本性トス火ハ上テ盛ニ成ツ本性トス
乘人乗レテ其性下ト馬又火性ニシテ其性上ワテ終ニ其

金之性火ニマリル火尅金也其外ノ相尅金尅木ト尅スレモ
東木ハ西金ニ向テ待尅シテ和合ノ理トナル木尅土ト尅スレト出
シ離レテ木性ヲタモワヌナレトハ五行之母ノ母成時ハ方尅
言ク和合ス是ヲ以テ原ト稱スル火尅金ハ右ニ見ヘタリ水尅火ノ馬
アリ水ヨク火ニカワト云モ水ハ降テ下ニ在火尅テ上ニ在乗人ノ上ニ乗
スル火下ノ水ヲスヌカカモ其レ北方ハ水南方ハ火能水尅火待尅
レテ和合ノ理トナル土尅水ノ馬右水土ヲ離ルヌナレトハ五行母
也又水カワキテ土トナル尅レテ相生ノ木尅土右ニ記セリ金尅
木是又待尅之理ニ尅レテ相生ノ理右ニ記セリ火尅金之尅
右ニ記セリ水尅火右ニ見タリ土尅木エソ離ル水ナレ尅レテ

相生ノ故ニ順行スレハ相生ヲ可トシ待尅スレハ尅スルヲ吉トス
然ルニ金性ノ人火性ノ馬ニ乗ラサルヌハ陰陽分ワテ五行ノ
性本来性負ル故ニ是ヲ離ラモノナリ當流ノ傳法ナリ

馬ゼンマウ四調老馬之傳

九駒ハ當歲ヨリ五歳ニ至ル迄ヲ駒ト云五歳迄ハ乳ノモ蓄存故ニ
駒ト云六歳ヨリ十五歳迄ハ四調ト云夫馬ハ月ヲ司テ生ス故ニ胎
内ニ十二月ヤトル月ハ十二ノ數ニ然ル故ニ十二月ノ故ニ馬ノ瞳子半月
ノ取テ一月ハ三日ヨリ十五日ニ精ヲ盛シテ十六日ヨリ其精カクル
故ニ馬月ヲ司ル有情時成ル故ニ十六歳ヨリ精衰ル故ニ十六歳ヨ
リ老馬ト云ヌナリ

小荷駄ミナコ 繩ヒツ 子コ 鈴スズ 付ツケ ル 傳

漢コリドク 三ハ 勒コリドク 通ト 繩ヒツ 上ウヘ 云ク 和ワ 繩ヒツ 上ウヘ 俗ソク 三
勒ハ 鑣ヒツ 之ノ 銜カシ 之ノ 唐トナカチ ノ 鎖ヒツ コリ
勒ムナカハ シ 通ス レ テ 鞆ツ 之 鎖ヒツ シ 通ス レ テ 結ムス 置ケ 繩ヒツ 之 右ミダリ 小コ 荷ネ 駄ダ 三 繩ヒツ 繩ヒツ ヲ 用
ル 左ヒダリ 之 背セ 三 重タカシ 荷ネ シ 付ツケ レ 必カナラシ 首カビ シ 上ウヘ テ 瓦ヒツ モ ノ ナリ 故ユヘ 雖ヒツ 繩ヒツ シ 付
テ 首カビ シ 門カド シ 必カナラシ 皆ツツ カリ 待マツ 且カツ 又マタ 地チ シ 見ミ セ シ 大オホ テ ワ ツカス 行ユク セ ン カタ
メ ナリ 鈴スズ 夜ヨ 中ナカ ニ テ モ 山ヤマ 中ナカ 杯ハシ シ 行ユク ニ モ 鈴スズ ノ 音ネ シ 聞ク テ 先マツ 馬ウマ 踏フ 馬
シ 知チ テ 道ミチ シ フ ミ タ カ 回マヒ レ キ 為ナリ 又マタ 物モノ 駑ウマ キ ヲ サ セ 向ムカヒ シ キ 為ナリ
驛イキ 路ジ 之 鈴スズ ト 云ク モ 其ソノ 又マタ 和ワ 漢コリドク 是コノ シ 用ユ 也ナリ

馬割耳傳

是コノ 父チチ 馬ウマ 母ハハ 馬ウマ 之 當トキ 年トシ 放ス レ 来キ 年トシ 夫ソノ シ 見ミ テ ス ク ナリ ナレハ
又マタ 馬ウマ シ 放ス 一ヒト 是コノ ハ コキ 馬ウマ ノ 子コ シ 取トル 之 為ナリ 放ス 野ノ 馬ウマ ノ 廣ヒロ 佚ヒツ シ ヲ リ
テ 數カズ 定マシ テ 放ス 又マタ 之 牧ウシ シ テ 馬ウマ シ 取トル 時トキ 二 其ソノ 父チチ 馬ウマ 母ハハ 馬ウマ シ 耳ミミ シ 割ツ タ
ル シ 驗シ シ テ 親オヤ 馬ウマ シ 取トル ス 又 數カズ ヘ リ タル シ 見ミ テ 馬ウマ シ 重オモシ テ 放ス 之 為ナリ
漢コリドク 三 七 同ドウ 也ナリ 牝メ 馬ウマ 牡オス 馬ウマ 割ツ 之 下シタ 云ク 之 牧ウシ 野ノ 者モノ 寔シヨク 者モノ 之 意イ
ナレ 牧ウシ 馬ウマ シ 以ツキ テ 稱ナ ト ス

馬足踏付之矩之傳

前マエ 足タラシ シ 割ツ テ 踏フ ト 爪ツメ シ 重オモシ テ 踏フ ト 又 腕ウデ シ 結ムス ヒ テ 踏フ ト 其ソノ ツツ 惡ワルシ
敷シ ト ス 此コノ 驢ウシ 足タラシ ハ 尾ビ 先マツ ニ 立タテ テ 踏フ ト 中ナカ ノ 節フシ シ ヲ ヲ リ テ 踏フ ト トモ 節フシ
ヨリ テ 地チ 本ホ シ ヲ 開ヒ キ テ 八ハチ 文マン 字ジ 之 踏フ ト 其ソノ ツツ 惡ワルシ シ キ ト モ ス 是コノ 又
トモノ 節フシ ヲ リ テ 地チ 本ホ シ ヲ 開ヒ キ タル シ 俗ソク 三 中ナカ ヒ 平ヒラ ト モ ト 云ク 一ヒト

馬場之亭亭立之夏

亭ハ馬見処ノ南北ノ馬場ニテモ東西ノ馬場ニテモ貴人馬御
覧之節ニ依テ何レシテモ日ヲ後口ニナスヨウニ亭ヲ立ル丁ノ日ソ
後ニナセハ馬能日ニ向テ馬具馬ノ相好ヨク見エルナリ日ニ亭ヲ向
テ立ワレハ日ニ向テ馬見カタク馬又影ニナリテ其鞍皆具馬ノ
相好見カタキ故身後ニテ立ル貴人ノ御覧ノ節ト朝ノ御
立ノ夏在夕馬場ノ御立ニ在具御心得ニ亭ヲ立ワレモ之
馬歳見様之口傳

當歳上二下二其齒四ツ凡ニ替ル其形太キニテ白色也然レモ
當歳

四歳ト二歳ニテ上下八生駒ノ齒口文字ノ如シ三歳ニテ上下十

六向齒生揃ニ五歳上下ノ中八替ル牙ヲ生然ル故ニ三歳ノ五歳ト
覺ルニ歳之齒皆替ル

六歳ニテ上下脇皆替歳調精平ニ是ヨリ二十ニ歳迄三種之

白目之口傳亦三歳ノ六歳五歳ノ七歳
ト馬之替ノ覺ルナリ

白目之口傳口傳

上ハヨキ様見エレモエエヌ又目ノ下ニ是シトクト知ルニハ手ニテモ又

何ニテモ目ノハタニテウツカスニ必ニテモ目タキヲセサルハアカリ目

煩目ヲ知ル口傳

是ハ何馬ノ目ニテモ其方ヨリキツト人見ヲ指付テ見張テ見
ルニ馬ニタキシレゲクスル病眼ト知レ能見ヘテモ病眼シ
直ニタルモノナリ

白目之傷レ懸ル口傳

是ハ目尻ノ子カヨリ白キモノハ出タル目ハ療治シトクトセ子ハ
直ラヌト知ヘシ

黒目ノ白キ口傳

是ハ黒目ノ上ニ三月ノ如ク百キ物見エル患シキハ亦白^{カニ}解^イト
テ黒目ノ上ヨリ下ニ筋ノ通りタルハ大吉之此旨希ナルモノナリ書
ニ云白^{カニ}纓^イ貫^イ鐘^イ是千里ト云々

目生シ知ル口傳

是ハ雲^{カニ}シ當^イリテ目^イヲ見^イルニマタ、キセヌ見張^イ隆^イキガ小^イ目^イニテ
モ大^イ目^イト見^イハリ好^イキカ大^イ目^イニテモ小^イ目^イト目^イ縁^イノ定^イラヌハ目
生^イアレキハ赤^イ星^イ代^イ勝^イ助^イカアカリ目^イノ生^イシ知^イル可^イニアカリ目^イハ
瞳^イノ玉^イモ臆^イニテウハ目^イハスレテ底^イハニコレリ

四季之療治口傳

春ハシメテ血^イヲ取^イテ可^イ也秋^イ冬^イ灸^イ治^イ可^イ也春^イ初^イテ血^イヲ取^イテハ馬^イハ
南方^イア^イテ生^イシテ火^イヲ司^イル火^イハ心^イヲ司^イル心^イハ血^イヲ司^イル故^イニ春^イ血^イ
多^イシテ氣^イ女^イシ氣^イ女^イシキ^イテハ氣^イハ肺^イハ金^イ之^イ金^イ火^イニ冠^イズ
火^イ尅^イ金^イ之^イ馬^イハ火^イ畜^イニテ氣^イ少^イル故^イニ多^イキ血^イヲ取^イテ馬^イヲ清^イクセ
多^イク心^イ氣^イコリ通^イシサセシカ為^イナリ春^イ血^イヲ取^イル^イテハ春^イハ木^イ金^イ
ナリ氣^イハ火^イノ母^イ之^イ故^イニ血^イ肝^イニ宿^イル故^イニ肝^イコリ血^イヲ生^イスル故^イ
ニ春^イ初^イテ血^イヲ取^イト云^イハ地^イ故^イニ始^イ夏^イ和^イ漢^イノ馬^イ書^イニ多^イクヤタリ

秋冬血ヲ取テ不可也秋ハ金之各ハ水ノ馬ハ火畜シ火尅年
尅シ水尅火ト尅スル故ニ血少シ故ニ秋冬針ヲ制シテ灸汁
レタルカヨキニ春ハ針斗用テ可也馬書ニ春初テ血ヲ取
夏泥ノ如ク秋冬各ニ血シツシムテ金ノ如クト記スモ秋冬ハ
尅シテ血ヲ惜ム故ナリ

馬料之傳

是ソアヤニツテ故病馬トナル或瘦馬トナル或ハ肥ナキテ
悪シキニ毒細馬料ノ品有テ也

常料之夏

大豆葉 苜蓿葉 大豆 粉糠

大馬ハ大豆三升 粉糠五升 草料ハ其程ニ順スヘシ

中料

大豆葉 芝 大豆 五升 粉糠 四升

右ハ世上一様ノ草料ニ是ノ中ノ料トスル也

雜料

芝 野芝 牛頭草 野蕎麥 大蓼 干菜

大豆一升 糶一升 粉糠二升

右ハ土民ノ畜養也

六時喂

春三月ヨリ秋七月迄昼四度 夜二度 喂シ八月ヨリ二月ヘテ

一日三度夜二度喂へし

四季春季料

大豆葉 野芝 俗野麦 牧菜 粟 粉糠

右ノ草料ヲミクシテ喂へし

夏季料

苜蓿葉 芝 大豆 大麦 粉糠

右ノ草料土氣シ去リ草ハ青葉ヲ食セ穀熟シテ可シ粉糠ハ喂度毎振雜名吉

秋季料

大豆青葉 苜蓿葉 野蕎麦 大豆 大麦 粉糠

右喂様ハ夏料ト同断ナリ

冬季料

大豆葉 干芝 大豆 小麦 粳米 粉糠

右ノ草料釜ニテ熟シテ後ニ喂へし

四季口草

各春ハ 苜蓿 標苜蓿シ忌ム三月ヨリ
青草シ常ニ用ユヘシ

夏秋ハ 薄 路芝ヲ用ユヘシ

肥馬之料

苜蓿葉 菜豆葉 標稻草 春大豆 粉糠 口草 標稻草
用ユヘシ

瘦馬料

大豆葉

小麦葉莖

白豆豉豆

粉糠

口草

大穀草或
晚稻草

右、肥瘦之馬ニ用ヘテ也。惣テ飲イ者因イ四季之品トシ

且又常中雜六時喂肥瘦之品有之。古未ハ春料夏料秋

料各料ノ法ソシカサス。近代其法ナレ故ニ病馬ト成テ捨ル

馬多シ

惣毛ヲ燒傳

是ハ秋九月ヨリシテ燒春二月下旬迄燒ソ可トス。是皮毛ニ

火氣ソヘテ爪邪ヲノソキ寒氣ソ防ク瘦治ノ用之。其監飭

心既牧寮ニシテ野駒ヲ取テ初テ惣毛ヲ燒其夏ノ毛ト

イニスル之野ニ住時ハ野風ノ多クイ毛ヲ取テ故ニ夫ソノ

ヅカシ為ニ惣毛ヲ燒テ只見フニ斗リ燒十ニ得テ古法

シ不知

蹄頭蹄内之針之古又

是ハ俗三四寸ト号シテ四足ニ血落タルニ用テ太キ成誤之蹄頭

蹄内ニ針ノ氣シハ降ス針処ニ當世知ル人ナシ。其儀馬經

ニモ出タリ

馬引出ス時之法

引出ス時手從カケ様ハ常ノ乘馬ハ鞍坪ノ通ニ手從ノ

ワナノ処ヲ掛テ引出ス。○貴人ハ召サセ申時ハ左右ノ

手從ヒトワニ取テ右之鞞手取ノ処ヨリシテワナヲ向ハ

カケ花へ下テ置シ是ハ召サレド其後手延テ取ラセ申サレカ
為シ又乗敷ノ処ヲヨケテ前ヘヨセテ掛ル軍陣ニテハ左右ノ
手延テ取鬚ノ上ニテ花ヲ右取右ツハ花へ取子カテワナノ延
シハ鞞坪ノ上ニ少前エヨセテカクルハ是ハスクニ其手延テ取
直ニ乗テ高名ヲ至セトテ引ル馬ノ義取チカヘテ掛置故
ニ手延テ取ルニ手向入ス乗トヒトシク手延テ取テ乗出ルナリ
陣中ニテ牽馬人ニワカワス馬杯ニ如ク手綱ヲ掛ル高名ノ士
ホメラテ又高名シ五トノ義シ○神馬之手延テハスクニワナノ
処ヲ取鬚ノ処ハ掛テ可シ不淨シ拂ヒテ乗敷シ清ル心ナリ
○遠行ノ時引馬ノ手延テワナシ後ワシテ越シテ鞞ノ上ニシ
クハ是ハ最早ノ乗人ナキトノ記ニシテ手延テ前ニ在テコソ乗
キ便リ在リ後ニ在テハ乗便リナキノ記也

鐘押様四品之法

是ハ天子將軍之御乗馬ノ時供奉ノ士御鐘ヲ押スルニ
馬ノ花ヲツテ我花ノ肩ヲ以馬ニ寄リ添馬ノ面之シハ後ニ
ナシ右ノ手ヲ以鐘ノ押取ツテ手ノ順ニシテ馳ト取テハ腰ヲ
屈カノ手ハ右ノ手ノ上ツテ越テ鐘ノ一文字ヲ手順ニシテ
一取テ手ノ平ラニシテ腹ト押付ルハ花ノ膝頭ニテ鳩胸ヲ押ユ
是也御是ツ下ル時ニ文字ヲ押ハタル花ノ手ヲ御足之
内ノ方ヨリソツト扱取テ右ノ手ニテ押取ナリテ待居

御足鐙ノ内ニ落付ト右ノ手ヲモ放シ左ヘ反リテスクニ供奉
スル也 ○貴人ノ御鐙ヲ押スルニ先馬ニ能寄候ズレテ
鐙ニ直向ニ居テ右ノ手ニテハ押取ツトラヘ左ノ手ニテハカク藏具サシ
之上ヲ取ラヘテ召サス法也左ノ手ヲ上ニシ右ノ手ヲ下ニシテ
押スル也 ○常鐙ヲ押スルハ鐙ニ直向ニテ左ノ手ニテハ押
取ツトラヘ右ノ手ニテハ文字ヲ押取ル也此ノ文字ヲ押取ル手
ハ大指ヒヤナイノ内ニ入テ手ハ頰ニシテ押スル也ナリ 常ニ馬
者如押
ニキナリ ○等輩ノ鐙
押スル法ハ是皆変ニヨリ場ニ依テ全人ナクシテ衆時ニ時宜
ニ押スル也モ有モツハ陣中ニテノ変ニ其時ハ右ノ手

ニテ押取シ取ラヘ左ノ手ヲハ我膝ノ上ニ置テ馬ニモ立ウラス
シテ鐙ニ方ヘ向ハス馬ノ首ノ方ヲ面ニシテ我ハ立ナカラテ
口トシサヘル也 是又軍中ニ在リナレハ
常ニ此法心得キテ急成場ニテ用之

佛家ニ馬ヲ引法

法ハ馬受取後レニ手籠シ取ニ兩輪ニ取テ六珠數クリ輪
ト名付然ル故ニ常是リ種フ也

馬ヲ始テ厩ヘ引入ル法

法ハ大釜ノフタニ馬之三種置 米味嚼鯉節ヲ
馬ノ三種ト云 馬ヲハ左ヘ引
廻シテ入レ引レテ右ノ三種ヲ飼也 是ハ六畜ノ中ニ今
日ヨリシテ我僕トナスノ意也

春生軒口傳秘書上終

